

## 2019年度（令和元年度）第6回番組審議会 議事録

開催方法 : 今回は新型コロナウイルス渦にて開催できず、各位に試聴レポートにて提出してもらいました。  
提出者 : 番組審議会委員4名  
委員名 : 金子富康、鈴木裕子、井上弘毅、斎藤進治、  
事務局 : 顧問・紺野 望、濱野 歩  
議事録 : 番組審議会事務局: 紺野望作成

---

### ■ 議 題

1. 審議番組名「ラジオの絆」生放送 パーソナリティ: 相浦やよい
2. 放送時間 2月15日 AM9:00~11:00 放送
3. 議題の放送番組全般に関するご意見、ご感想について
4. その他FM戸塚の放送に関するご意見ご感想について

### ■ 議題番組について (事務局から説明)

番組「ラジオの絆」パーソナリティ相浦やよいに関する事務局からの説明

- ・今回の議題である「ラジオの絆」(パーソナリティ相浦やよい)は、開局以来、毎週土曜日の午後放送していたが、昨年10月の改編より午前中に変更し、放送しているもの。FM戸塚の長寿番組の1つである。
- ・パーソナリティの相浦やよい氏が放送を通じて、聴取者と連携を図り、日常生活の情報を伝えると共に、リスナーとの繋がりをつくり、生活により潤いを生み出そうという意図で番組が開始された。相浦氏は戸塚区とその周辺地域にくまなく足を運び、人との連携を強めてきた。その意味では地域メディアあるコミュニティFM放送のあるべきパーソナリティ像を実践してきたと言ってもよい。
- ・現在の番組内容は、情報番組であるため、ニュース・交通情報・天気予報などリアルタイムに必要な情報の提供と話題を聴かせる2~3つの企画コーナーから構成されており、楽曲も数曲紹介する趣向で2時間を綴っている。特に“子供医療センター”と連携する「ラジオでこんにちは!」は入院中の子供たちを励ます意図で、子どもからのリクエストに応える趣向は、番組の1つの聴き物の1つ。かつてコミュニティFMとして地域密着性を子供医療と連携する好企画としてNHK・TVに取り上げられたこともある。

### ■ 各審議委員からの試聴意見・感想は以下の通り。

審議委員(A)

- ・番組全体の感想を述べます。
- ・全体にテンポが冗長な感じました。特にパーソナリティのお喋りの部分で、言葉が出るまでに間があり、あれ!どうしたのかな、と思ったりしました。もう少し間を詰めと聞きやすいのではないかと。
- ・現場でのインタビューは良いことですが、インタビューされている人の声がいきなりプツッと切れた箇所が

2つほどあり違和感を感じた。折角の現場からの実況なので、臨場感あるコメントが欲しかったです。

- 相浦さんは色々と努力をされていると感じます。私にはテンポが合いませんでした。もう少しテンポよく話されると魅力的になり、次回も聴きたいという気持ちになると思います。

#### 審議委員（B）

- 番組について：この番組は土曜日の午前中ですが、番組コンセプト、番組対象者をどのように想定しているのか、今一つ分かりませんでした。番組内容で「物づくりの絆」紹介するコーナーでは、門扉の取り付け現場を紹介していましたが、企業を紹介する方法は、以前番組での「食レポ」を取り上げたことがあります。同じように難しさを感じました。そうじて番組全体はゆっくりした進行で、コーナー企画の内容や楽曲紹介などで構成されていますが、リスナーが家にいながら、車を運転しながらBGMとして聴くのはいい番組と思う。でもコーナー企画には、次回も聴きたくなるような核となる企画で、インパクトが欲しかったと思います。
- パーソナリティについて：しゃべり方のテンポがゆっくりで、このゆっくりさには意図があると思われるが、聴きづらく感じた。時折誤読も気になった（台東区を「だいとうく」と読んでいる）。情報の伝達文章を切りながら読むのは、何か意図しているものと思われるが、多少聴きずらくなっているように感じました。。

#### 審議委員（C）

- 番組について：スタジオ前に来ているリスナーに声を掛けるのは、ラジオにより一層親近感を抱かせる演出になっていて、パーソナリティの気遣いに好感を持ってました。北海道の特派員「北の虎吉さん」の話が出ていたが、番組を楽しみにしているリスナーの広がり、地域の広がりに関心を持ちました。

演出として小学校生の可愛い子でジングルをコールするのはとても好感を持ってました。もう少し彼らの紹介が欲しかったです。企画コーナーで、中継インタビューがありましたが、1時間も踊ったという5歳の子にもマイクを向けてほしかったと思います。

もう一つのコーナー「戸塚のカ～物づくりの絆」では、物づくり現場の「ワイドアルミ」の取材はとても感心しました。番組演出として、ラジオならではの音の世界を伝えるのであれば、コメントは避けて音のみにしてもよかったのではないかな。音の説明は工事依頼主との対話のなかで触れた方が、音のイメージが膨らんで聴こえたのではないかと思います。

- パーソナリティについて：相浦氏の話し方は「個人的な話」として札幌の話題、お母様のことなど良く登場します。この番組の特徴はパーソナリティの個人的な話題を通じて、親戚や友人、リスナーとその相手、職場と同僚等々に思いやる気持ちが彷彿とすることであるのではないかな。一方「パーソナリティは個人的な話題を控えるもの」という声を聞いたことがあります。このパーソナリティ・ルールと相浦氏の話し方は議論の1つになるのではないかな。審議委員の皆さんにご意見を伺いたいと思います。

#### 番組審議委員（D）

- 番組とパーソナリティについて箇条書きにします。
  - a) 交通情報が2回放送されています。放送が土曜日ということで、リスナーの外出機会が多いと思うので、情報回数が少ないように感じます。車で聴取する人も多いでしょうから・・・。
  - b) ニュース／交通情報を伝えるなかで、一瞬言葉が止まってしまう（間が空く）ことが幾つかありました。

どうしたのかと思いました。その理由を確認して下さい。

- c) 前半の企画コーナーで、放送前日のバレンタインイベント企画の会場でのインタビューがありましたが、イベント全体の概要が分からなかった。やはりイベントの説明があって、その会場からの中継だということをしてもらう必要があると思います。
- d) 札幌に帰省して、雪まつりが楽しみという話がありました。放送の2月中旬には新型コロナウイルスが世間で出回っていたので、これについて触れるべきではなかったでしょうか。生放送なので、世の中の動きを踏まえて話すべきではないかと思いました。
- e) 後半の企画コーナー「物づくりの絆」では、工事の様子を伝えていたが、私のような工事に関係しているリスナーには興味が沸くが、そうでないリスナーには工事機械の音を聴いても、全く理解できなかったのではないかと思います。(株)ワイルドアルミの宣伝に力の入れすぎたように感じました。
- f) この番組は以前審議会で取り上げたことがありましたが、前回と比較しますと、番組の進行が随分早くなっている感じがします。話し方といい、話の進め方、あるいは内容について、早口でせっかちというか、物凄く急いでいる印象がありました。この受け止め方は私だけでしょうか。前回の議事録と比較してみることも必要ではないかと思いました。

#### ■ 事務局から

・各委員のご発言のなかで、いいところは沢山ある番組であるが、課題として上げられるのは、①番組全体では番組進行が早すぎる点。これはパーソナリティ相浦やよい氏の話し方に関わる問題として、②聴かせる企画コーナーにおける企画内容の伝え方の不明確さ、そして③相浦やよい氏のパーソナリティとしての話術について、と大きく3点が上げられると思う。この点についてご説明するとともに、改善すべき点を本人に伝えて行くことにしたい。

##### 1) 相浦やよい氏のパーソナリティとしての話術について

ニュースや交通情報、天気予報など情報伝達については、つかえたり、トチったり、誤読する、といった点に関しては、放送準備不足の一点に尽きると思う。もう一つは企画コーナーなどに見られることだが、説明不足が多いこと。同じ現場に居た人へ話しかけるような、相手もその場の内容を知っていることを前提として話を進めていることに原因があると思う。これは相浦やよい氏のライフスタイルとかかわりがあり、接触している人々だけに聴かせるスタイルになってしまっている。コミュニティFMのパーソナリティの在り方として、相浦氏の番組ターゲットの捉え方の良し悪しをもう少し突っ込んで検討する必要があると思う。彼女のスタイルを、地域メディアとしてあってもよいという意見もあると思うで・・・。

##### 2) 聴かせる企画コーナーにおける伝達の不明確さについて

これは、1)とも関連すると思うが、相浦氏が現場に居た人に聴かせるような話し方があり、説明不足になっているのではないかと。現場にいないリスナーには分からないことになる。企画コーナーでは、取り上げる話題を、事前に分かりやすく説明しておく必要がある。それさえあればそんなに分かり難いことはないのではないかと。この点は本人にアドバイスします。

##### 3) 相浦やよい氏のパーソナリティとしての話術について

この課題は、相浦氏がコミュニティFMのパーソナリティとしての意識に関わるものだと思う。それは

〈リスナー＝知り合い〉として意識する場合と〈リスナー＝地域住民〉として意識する場合。この違いは同じ地域に住む人でも知り合いでない人にも聴いている、聞いてもらう、という意識があるかないか、という問題である。これはC委員が指摘している問題とも関連する。～「パーソナリティは個人的な話題は控えるもの」という不文律のルールがあると聴くが・・・～という発言。

事務局が把握していることは、その昔全国放送のNHKがアナウンサーに指導していたという記憶があるが、現代ではNHKも民放もアナウンサー＝パーソナリティはリスナーに対してその人の個性を表出することが好まれるとして、個人の生活環境や趣向を話のなかに出して行く傾向が強く、コミュニティFMのパーソナリティとしても同様な受け止め方をしている。しかし全国放送と地域放送では、自ずから違いがあるので、パーソナリティの在り方に違いが生まれる。

相浦氏の場合は、ご自身は無意識かもしれないが、地域リスナーのなかでもさらに限定したリスナーをターゲットに話しているところがあるように感じられる。コミュニティFMという地機メディアなので、相浦方式も時にはあってもいいと思うところもあるが、これは放送局の姿勢にもかかわるので、ここではいいとも改善すべきとも言い難い。ただ一つだけ申し上げるならば、相浦やよい氏が企画・構成・パーソナリティを演じるこの番組が、朝日新聞やNHK・TVに取り上げられるほど地域性のある好企画としてFM戸塚から全国へ発信している番組であることを知っておいてほしいと思います。

■ 放送番組全般に関するご意見・ご感想

今回の番組審議会は、レポートという形式を取ったため、この項目についてはご意見がありませんでした。

■ 各審議委員からのご意見に対して、事務局から下記の回答を、郵送いたします。

- 1) 番組「ラジオの絆」は内容については良い点が多くあるので、これからはニュース・交通情報など情報伝達のアナウンスメントには、下読みをしっかりと対応してほしいこと。企画コーナーについては、どんなリスナーが聴いても分かりやすい伝え方に改善してもらうこと、2時間という全体の進行をスムーズに進めるための起承転結、情報内容にメリハリをつけること、などなどをアドバイスする。
- 2) コミュニティFMのパーソナリティとしての相浦やよい氏の在り方について、社内でしっかり議論し、統一見解を得た上で、納得してもらい、番組に携わっていただく。NHKや一般民放、あるいは有線放送など放送メディアの違いを把握した上で、番組ターゲットにどのように番組を聴いてもらうか、議論して方向性を決めていきたいと思う。

■ 次回の番組審議会開催

次回開催日は、各委員に連絡を取り、来る5月中に開催すべく調整いたします。

以 上